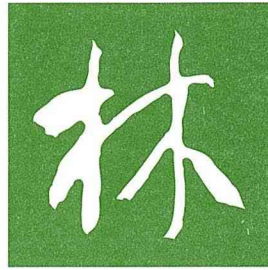
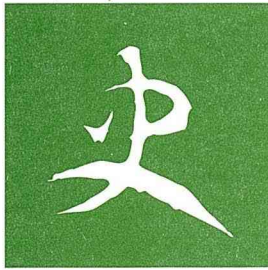


二〇一五年一月二五日
発行



第98卷 第1号 史学・地理学・考古学

特集 祈り

史学研究会

京都大学大学院文学研究科内

特集 祈 り

特集「祈り」に寄せて……………吉川真司（1）

論 説

古代の祭祀空間……………松尾充晶（3）

——『出雲国風土記』にみる地域社会の神と社——

鎌倉期における専修念仏教団の形成と展開……………坪井剛（32）

中世後期ネーデルラントにおける

聖地の表象と贖宥……………青谷秀紀（69）

清代後期における重慶府巴県の寺廟と地方社会……………水越知（103）

——『巴県档案』寺廟関係档案の基礎的考察——

祈りの意味・物質・身体……………森正人（143）

——四国遍路の政治学——

ムスリム同胞団創設者ハサン・バンナーの

「行動の思想」……………横田貴之（172）

「祈り」と「怒り」の広島……………山本昭宏（202）

——原爆孤児救護運動とサークル運動を中心に——

書 評

長谷川修一著『聖書考古学——道跡が語る史実——』……………桑原久男（235）

本多健一著『中近世京都の祭礼と空間構造——御霊祭・今宮祭・六斎念仏——』

……………渡辺康代（242）

中西竜也著『中華と対話するイスラーム

——17-19世紀中国ムスリムの思想的営為——』……………矢島洋一（249）

大橋幸泰著『潜伏キリシタン——江戸時代の禁教政策と民衆——』

……………山中聡（256）

2014年度史学研究大会講演要旨

2014年度史学研究会大会・総会の記録

関係について報告があった。

これに引き続き、公開講演が行われた。講演は次の二本であった。

小島 道裕氏

「洛中洛外図屏風をめぐるいくつかの論点——中世から近世へ——」

川島 昭夫氏

「海の植物園——セント・ヘレナ、モリシヤス、マドラス——」

講演者紹介と司会は、それぞれ上島享理事と金澤周作評議員がつとめた。講演内容は本号に掲載されているので参照されたい。本年は休日開催に加えて悪天候でもあったが、一〇〇名近い参加者を得ることができた。

公開講演ののち、吉井秀夫理事が閉会の辞を述べ、引き続き文学部第二講義室にて懇親会を開催した。

(文責 久保一之)

史学研究会会則

(二〇一〇年一月二日改正)

第一条 本会は史学研究会と称する。

第二条 本会の事務所を京都大学大学院文学研究科内に置く。

第三条 本会は広く歴史に関心を持つ者が集まり、史学・地理学・考古学に関する研究を行うことを目的とする。

第四条 本会の事業は次の通りである。

1. 総会・大会・例会等の合会
2. 会誌『史林』等の発行

第五条 本会に次の役員を置く。
理事長一名、理事一五名以上三五名以内
(内常務理事四名)、監事二名、評議員四〇名以上六〇名以内、委員若干名

第六条 役員は理事会及び評議員会によって選出され、総会の承認を受けるものとする。理事長は本会を代表し、会務を統括し、会員総会、理事会及び評議員会を招集する。理事は理事会を構成し、会務を処理する。とくに常務理事は、庶務・編集・会計・広報の各事務を担当する。監事は会計経理を監査する。

第七条 委員は理事長より囑託され、編集・庶務の実務を分掌する。

第八条 役員の任期は、委員(任期一年)を除き、二年とする。但し、再任をさまたげない。

第九条 本会は第三条に掲げた目的に賛同する者をもって会員とする。会員は次の

2種類とする。

1. 正会員 2. 学生会員

第十条 会員は会誌『史林』の配布を受け、かつこれに投稿し、また総会に参加することができ。

第十一条 会員は、退会届を事務局に提出し、任意に退会することができる。また、会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、退会したものとみなす。

(1) 本人が死亡し、または会員である団体が消滅した時

(2) 会費を三年間納入しない時

第十二条 会員は、所定の会費一年分を前納するものとする。会費の納入を二年分怠った時、雑誌の送付を停止される。さらに一年間会費の納入を行わない場合、会員の資格を喪失する。

第十三条 会員が既に納入した会費は返還しない。ただし一年分を超えて前納している場合には、一年分を超える部分を返還する。

第十四条 毎年秋季に大会を開き、また適宜例会を開く。会場等はその度にこれを定める。

第十五条 毎年秋季において総会を開き、

会務の報告を行ない、承認を受ける。
第十六条 本会の経費は会費、事業収入及び寄付金を以て支弁する。会費は誌代を以てこれにあてる。

第十七条 本会の会計年度は四月に始まり、翌年三月に終わる。

附則 本会則の変更は、会員総会の決議によるものとする。

但し会務執行に必要な細則及び物価変動に基づく会費金額の変更は理事会がこれを行う。

『史林』投稿規定

◇資格 本会会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

論説 1段組54字×19行の体裁で、三三〇

〇〇字以内

研究ノート 2段組29字×20行の体裁で、

二〇〇〇字以内

研究動向 2段組29字×20行の体裁で、三

二〇〇〇字以内

史料紹介 2段組29字×20行の体裁で、三

二〇〇〇字以内

書評・論文評 2段組、八〇〇〇字以内

紹介 3段組、一二〇〇字程度

◇原稿の種類を明示すること。

◇いずれにおいても、本文や注だけでなく謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの紙幅に収めること。

◇注は各章末に入れること。

◇「欧文タイトル」を添付すること。

◇論説には「要約」（四〇〇字以内）を添付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の対象外とする。

◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載が決定した時点で、「欧文要約」（六〇〇〜八〇〇語程度）を提出すること。なお、英文要約に限り、翻訳による作成依頼にも応じるが、経費は投稿者負担とする。

◇投稿に際しては、(1) プリントアウト一部もしくはPDFファイル、および(2) 電子データを送付する。電子データに関する詳細は下記「補足」の〈電子データ作成要領〉を参照。電子データを準備できない場合は、あらかじめ事務局まで連絡すること。

◇図版を用いる場合は、下記「補足」の〈図版作成要領〉に従って作成、添付すること。

注意・編集委員会において、印刷技術上、

図版の修正や特殊活字の作成を要すると判断し、これを業者に委託した場合には、その経費の一部、数千円〜数万円を負担していただきます。あらかじめご了解下さい。

送り先・史林編集委員会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科内 史学研究会

『史林』投稿規定「補足」

〈電子データ添付要領〉

・電子データは、フロッピーディスク、CD-R、CD-RW、USBフラッシュメモリーなどのメディアに保存して郵送することを原則とする。郵送に不便があるなどの事由で、メールによる投稿を希望する場合は、あらかじめ事務局に問い合わせること。

・本文の電子データは、マイクロソフト・ワード、一太郎、テキストファイルのいずれかの形式で保存し、保存形式（OSおよび使用ソフト）を明示すること。

・図版に電子データを使用する場合には、300dpi以上の解像度とする。ソフト（IllustratorやPhotoshopなど）やパー

ジョンについて事前に照会・確認をすること。

〈図版作成要領〉

- ・本文原稿中に図版の割付箇所を注記すること。
- ・仕上寸法は、最大で170mm×110mm（キヤブシヨシ込み）とすること。
- ・図および写真は、仕上寸法の2倍（面積4倍）程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。
- ・図は、トレーシングペーパーや製図用ケント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つため、製図用ペンを使用することが望ましい。
- ・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。
- ・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭

にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会で調整する。その経費は投稿者負担とする。

・表は、仕上を配慮して、文字数や表現法を工夫すること。原表の掲載を希望する場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

注意・図表に不備がある場合は、投稿者に修正を依頼するか、編集委員会が修正します（経費は投稿者負担となります）。

〈論文等の電子的公開について〉

- ・著者が論文等を任意のサーバーに、機関レポジトリ等を使って公表する場合は、以下の条件を満たすことを要する。この条件を満たす限りにおいて、本会への承諾いは不要とする。
- イ 『史林』の版面をそのままPDFファイルなどにして公開する場合は、掲載誌刊行後、二年を経過していること。
- ロ 論文の出版を明らかにすること。
- ハ 営利目的でないこと。

受 贈 誌

二〇一四年一〇月六日
二〇一五年一月四日

地域アカデミー 公開講座報告書（広島大学大学院文学研究科歴史文化学講座）二〇一三

経済学研究（九州大学経済学会）八一―一
経済学研究（九州大学経済学会）八一―

二・三合併号
奈良文化財研究所概要（奈良文化財研究所）二〇一四

米沢史学（米沢史学会）三〇

藝林（藝林會）六三―二
成大歴史學報（國立成功大學歷史學系）四

六
史学研究（廣島史學研究会）二八五

史観（早稲田大学史学会）一七一
日本研究 国際日本文化研究センター紀要（国際日本文化研究センター）五〇

史學雜誌（史學會（東京大学文学部内））二二―一九

龍谷史壇（龍谷大学史学会）一三八

人文地理（人文地理学会）六六―四
日本學士院紀要（日本學士院）六九―一

（二〇一四年一月改定）

- 日本史研究(日本史研究会) 六二六
 信濃(信濃史学会) 六六一—一〇
 一橋研究(一橋大学大学院一橋研究編集委員会) 三九—二(通卷一七九)
 日本歴史(日本歴史学会) 七九八
 立命館産業社会論集(立命館産業社会学会) 五〇—二
 アジア研究所所報(亜細亜大学アジア研究所) 一五六
 中央研究院 歴史語言研究所集刊(中央研究院歴史語言研究所) 八五—三
 立命館法學(立命館大学法学会) 三五五
 日本文学刊 JAPANESE STUDIES(中国社会科学院日本研究所中華日本学会) 二〇一四・五
 駿台史學(駿台史学会) 一五二
 神道宗教(神道宗教学会) 二三四
 神道宗教(神道宗教学会) 二三五
 国家學會雜誌(国家学会事務所) 一二七—九・一〇
 經濟研究(一橋大学經濟研究所) 六五—四
 歴史(東北史学会) 二二三
 大谷大学史學論究(大谷大学文學部史學科) 一九
 史學雜誌(史學會(東京大学文学部内))
- 一二三—一〇
 茨城大学人文学部紀要 人文コミュニケーション
 ション学科論集(茨城大学人文学部) 一七
 茨城大学人文学部紀要社会科学論集(茨城大学人文学部) 五八
 信濃(信濃史学会) 六六一—一
 海事史研究(日本海事史学会) 七一
 美術研究(東京文化財研究所) 四一三
 国史談話会雜誌(東北大学国史談話会) 五五
 五
 日本歴史(日本歴史学会) 七九九
 社会經濟史學(社会經濟史学会) 八〇—三
 立命館史學(立命館史学会) 三五
 国立歴史民俗博物館年報(国立歴史民俗博物館) 一〇
 史迹と美術(史迹美術同致会) 八四九
 須坂市域の史料目録(須坂市誌編さん室) 六
 文化史學(文化史学会) 七〇
 立命館文學(立命館大学人文学会) 六三九
 九州国際大学経営經濟論集(九州国際大学經濟学会) 二〇—三
 アジア研究所所報(亜細亜大学アジア研究所) 一五七
- 韓國民族文化(釜山大学校韓國民族文化研究所) 五三
 考古学報(中国社会科学考古学研究所) 二〇—四
 大美和(大神神社社務所) 二二八
 信濃(信濃史学会) 六六一—二
 立命館國際平和ミュージアムだより(立命館國際平和ミュージアム) 二二—二
 史學雜誌(史學會(東京大学文学部内)) 一三—一
 日本民俗学(日本民俗学会) 二八〇
 東洋史研究(東洋史研究会) 七三—三
 CHRONOS クロノス(京都橘大学女性歴史文化研究所) VOL. 三六
 ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The Official Journal of the ANTHROPOLOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一三—一 (Japanese series)
 ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The Official Journal of the ANTHROPOLOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一二—三
 東方學報(京都大学人文科学研究所) 京都 八九
 經濟論究(九州大学大学院經濟学会) 一五

-
- 日本史研究 (日本史研究会) 六二八
- 政治經濟史學 (日本政治經濟史學研究所)
五六五—五七六
- 國史學 (國史學會) 二一四
- 人文地理 (人文地理學會) 六六一—五
- 韓國史研究彙報 (韓國國史編纂委員會) 一
六六·一六七
- 東方學會報 (東方學會) 一〇七
- 立命館法學 (立命館大學法學會) 三五六
- 史迹と美術 (史迹美術同攷會) 八五〇
- 史學研究 (廣島史學研究會) 二八六
- 日本歷史 (日本歷史學會) 八〇〇
- 桃山歷史・地理 (京都教育大學史學會) 五〇
- 日本學刊 JAPANESE STUDIES (中國社會科學院日本研究所中華日本學會) 二〇
一四·六
- 經濟科學 (名古屋大學大學院經濟學研究科) 六二—二
- 人文學 (同志社大學人文學會) 一九四
- 國家學會雜誌 (國家學會事務所) 一二七—
一一·一二
- 神道史研究 (神道史學會) 六二—二
- 日本歷史 (日本歷史學會) 八〇—一
- 人文研究 (小樽商科大学) 一二八
- 文化 (東北大學文學會) 七八—一·二
- 日本史研究 (日本史研究会) 六二九
- 哲學研究 (京都哲學會) 五九八
- 日本史研究 (日本史研究会) 六二七
- 史學雜誌 (史學會 (東京大學文學部內))
一一三—一一
- 信濃 (信濃史學會) 六七—一
- 史迹と美術 (史迹美術同攷會) 八五一
- 東方學 (東方學會) 一二九
- 法學志林 (法政大學法學志林協會) 一一二
—一
- 經濟研究 (一橋大學經濟研究所) 六六一—一
- 立命館文學 (立命館大學人文學會) 六四〇
- 立命館產業社會論集 (立命館產業社會學會) 五〇—三
- 西洋史論叢 (早稻田大學西洋史研究会) 三
六
- 國立臺灣大學 考古人類學刊 (國立臺灣大學
學院人類學系) 八一
- 中央研究院 歷史語言研究所集刊 (中央研
究院歷史語言研究所) 八五—四
- 史學 (三田史學會) 八三—四
- 人文地理 (人文地理學會) 六六一—六
- 日本學研究 (金沢工業大學日本學研究所)
一七
- 信濃 (信濃史學會) 六七—二
- 史學雜誌 (史學會 (東京大學文學部內))
二二—一
- 國立歷史民俗博物館研究報告 (國立歷史民
俗博物館) 一九二
- 日本學刊 JAPANESE STUDIES (中國社
會科學院日本研究所中華日本學會) 二〇
一五·一
- 九州國際大學教養研究 (九州國際大學教養
學會) 二—一·二合併号
- 社會經濟史學 (社會經濟史學會) 八〇—四
- 專修史學 (專修大學歷史學會) 五七
- 史泉 (関西大學史學・地理學會) 一一二
- 日本史研究 (日本史研究会) 六三〇
- 國立歷史民俗博物館研究報告 (國立歷史民
俗博物館) 一八九
- 中山大學學報 社會科學版 (中山大學學報
編集部) 五四—四
- 中山大學學報 社會科學版 (中山大學學報
編集部) 五四—五
- 中山大學學報 社會科學版 (中山大學學報
編集部) 五四—六

編集後記

九八巻一号をお届けいたします。まずは刊行が遅れ、皆さまにご心配をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。

さて、共通テーマに基づいた論考を各分野から募る特集号も、今回で九度目となります。今年のテーマは「祈り」。これまでとはやや毛色の異なる、挑戦的なものとなりました。人々の心のうちにまで踏み込むがゆえに、難しいテーマであったかと思えます。この困難な依頼に見事に応えていただきました執筆者の諸先生には、心より御礼申し上げる次第です。無事刊行を願う我々編集委員の祈りも、どうやら聞き届けられたようです。

今回は七本の論説と四本の書評を寄せていただきました。それぞれの対象となる時代・地域（「いつ」「どこで」「折るのか」）は、非常に広範囲にわたります。さらには、「誰が」「誰に」折るのか、そして「何を」「どのように」折るのか、それすらも多種多様であります。

しかし、多様さは見方を変えれば、曖昧さでもあります。「祈り」という語の持つ

曖昧さ故に、特集号全体の論点が不鮮明になってしまった感はありません。もちろん、これは執筆者の先生方の責任ではございませんし、決して個々の論文の価値を損なうものでもございません。その責を負うべき編集委員の一人としてこの度の反省を活かし、より良い紙面づくりに向けて精進していく所存です。（塩野崎）

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenkkyukai.jp/index.html>

二〇一五年一月二五日印刷
二〇一五年一月二二日発行 定価二、〇〇〇円

史学研究会 第九八巻第一号（通巻第五〇九号）

発行人

史学研究会

振替京都〇一〇七〇二二五二番
理事長 永井 和

印刷所

中村印刷株式会社
京都市南区上島羽藪田二九

史学研究会例会のお知らせ

下記のとおり、史学研究会例会を開催いたします。多数ご来会くださいますよう、ご案内申し上げます。

日時 二〇一五年四月一八日(土) 午後一時～六時一五分

場所 京都大学文学部 新館第三講義室

テーマ 「家族」

プログラム

開会挨拶 史学研究会理事長 永井和

趣旨説明

第一部 (午後一時一五分～三時四〇分)

栗原麻子 「前四世紀アテナイにおける家の継承と家族の肖像」

下倉 渉 「訴える女たち」——『嶽麓書院藏秦簡(参)』『識劫媿案』をめぐる——

磯貝健一 「ロシア帝政期中央アジアのシャリーア法廷裁判文書に見える家族内紛争」

第二部 (午後四時～五時三五分)

柿本真代 「日記と家庭教育——明治二〇年代を中心に」

湯澤規子 「近代産業形成期における農家経済構造の変化とその地域性——愛知県『農家経済調査』にみる農家の暮らし——」

質疑および討論 (午後五時三五分～六時五分)

閉会の挨拶 京都大学文学部研究科歴史文化学系代表 吉井秀夫

※終了後、懇親会を予定しております。奮ってご参加ください。(午後六時三〇分～午後八時、参加費一般一〇〇〇円・学生五〇〇円、予約不要)

史学研究会

Special Issue
PRAYER

YOSHIKAWA Shinji, Foreword..... (1)

Articles :

- MATSUO Mitsuaki, The Spatial Dimension of Ancient Rites:
Local Society and Shrines as Seen in the *Izumo no Kuni Fudoki* (3)
- TSUBOI Gou, The Formation and Development of
Senshu Nenbutsu Congregations in the Kamakura Period..... (32)
- AOTANI Hideki, Representations of Sacred Sites and Indulgences
in the Late Medieval Low Countries..... (69)
- MIZUKOSHI Tomo, Temples and Local Society in Ba County,
Chongqing Prefecture during the Late Qing Period:
A Fundamental Study Centered on Ba County Archives (103)
- MORI Masato, The Materiality, the Body, and Mobility of the *Henro*
Pilgrimage (143)
- YOKOTA Takayuki, The “Thought into Action” of
Hasan al-Banna, the Founder of the Muslim Brotherhood..... (172)
- YAMAMOTO Akihiro, The Prayers and Anger of Hiroshima:
Focusing on the Movement to Protect Atomic-Bomb Orphans
and Club Movements (202)

Book Reviews :

- HASEGAWA Shūichi, *Biblical Archaeology: “History” based on
Archaeological Studies* (KUWABARA Hisao)..... (235)
- HONDA Ken’ichi, *Spatial Structure and Festivals in Medieval and Late
Early-Modern Kyoto: Goryo-matsuri, Imamiya-matsuri
and Rokusai Nenbutsu* (WATANABE Yasuyo)..... (242)
- NAKANISHI Tatsuya, *Islam in Dialogue with Chinese Civilization:
Intellectual Activities of Chinese Muslims
during the 17th-19th Centuries* (YAJIMA Yōichi) (249)
- ŌHASHI Yukihiro, *Underground Christianity: The Ban on Christianity
and the People of Edo-period Japan* (YAMANAKA Satoshi)..... (256)

Miscellaneous :

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCVIII No. 1

January 2015

Special Issue

PRAYER

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 2,000円(税込)

ISSN 0386-9369